

議 事 の 経 過

【開催日時】

令和元年11月18日（月） 午後1時30分～午後2時50分

【場 所】

坂戸市役所303・304会議室

【出席者】

委員15名中13名

【傍聴人数】

0名

【議 事】

- (1)第3期坂戸市地域福祉計画・第3期坂戸市社会福祉協議会地域福祉活動計画（素案）について
- (2)その他

【配布資料】

第3期坂戸市地域福祉計画・第3期坂戸市社会福祉協議会地域福祉活動計画（素案）

発言者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	(1)第3期坂戸市地域福祉計画・第3期坂戸市社会福祉協議会地域福祉活動計画（素案）について 素案をもとに説明。
委員	校正誤りがある。1ページ2段落目の1行目「活性化さる」は「活性化させる」が正しいのではないか。
委員	31ページ2段落目の2行目で、「わからない」と書くべきところが「わかりない」になっている。
事務局	指摘いただいた箇所を訂正する。
委員	昨年、自分も参加したが、市民活動フェアや福祉であいの

	<p>広場など市や社会福祉協議会が主催しているイベントの参加者や参加団体が減っていると感じる。参加者や参加団体も減っている中、開催日程や別のイベントとの兼ね合い、周知方法などが改善されないまま計画されている。</p> <p>また、60ページに社会福祉協議会の取組として「市役所関係課との連絡調整の充実」とあるが、62ページの市の取組「市民活動支援施設の管理・運営」には社会福祉協議会と連絡調整する記載がない。</p> <p>団塊の世代が高齢者になる一方、子どもが少なくなり、子育て世代の人たちは共働きが当たり前になっている中で、子育て世代の人たちはボランティア活動どころではないのが現状である。44ページにも「シニアボランティア活動の推進」と社会福祉協議会の取組にあるが、60代の人でも働いており、ボランティアを募るのが困難である。ただ、困難であるからこそボランティア活動を活性化するために社会福祉協議会と市役所関連部署がお互いに連携し、ボランティア団体を周知する機会が必要だと思う。</p>
事務局	<p>社会福祉協議会と市役所のボランティアに対する支援が別々のため、意見を市民生活課に伝え、この計画の中で文言が変えられるか、計画に基づいた活動の中で変えていくか検討していきたい。社会福祉協議会の考えも確認し、関係課には社会福祉協議会との連携が今後の重要な課題であると伝える。</p>
委員	<p>先日の台風第19号の被害を受けて、災害に関する課題や、災害発生時の市の対応や被災者への支援に関する計画を入れたほうが良いと思う。</p>
事務局	<p>70ページに避難行動要支援者への支援という項目があるが、3ページにある他の関連計画の中にある「防災関連」で整合性を取っている。</p>
委員	<p>今回の台風の被害を受け、避難所が限られるなどの現実に直面した。防災における支援計画はあるものの、福祉も関わるためその視点を組み込めれば、今後災害が発生したときに安心につながるのではないかと。</p> <p>また、ボランティアも高齢化しているが、一方で働かない</p>

	<p>と生活できないなど、今までと同じことを求めるのは難しいため、必要なことを全員で考えていくことが重要だと思う。お互い支え合うという機運をもって福祉教育をして意識を持つことを働きかける計画となしてほしい。</p>
委員	<p>高齢化により解散するボランティア団体も増える中、社会福祉協議会では小・中学生を対象にボランティア体験教室を開いている。高齢者が集まるサロンでカレーライスの配膳などのボランティアをしていたが、手際よく、積極的に声掛けをしていた。家に帰って家庭でも話してもらえば、自分にできることを考えるきっかけとなるため、体験を通じて楽しみながら理解し今後活かしてもらえるような場を作ればよいと思う。</p>
事務局	<p>防災については、70ページに防災に関することは載っているが、今後計画の方針に更に盛り込むか検討していく。ボランティアに関しては社会福祉協議会の活動計画にもある。</p>
社会福祉協議会	<p>きっかけづくりとして夏休みに社会福祉協議会で行っている小・中学生向けのボランティア体験教室の参加者が昨年より増えている。今後も充実させ、若者に対する福祉教育にも力を入れたい。</p>
委員	<p>20ページに「空き家数の推移」があるが、平成25年より平成30年が減っているのはなぜか。また、空き家に対する取組が記載されていないため、内容が希薄であるように感じる。件数の捉え方にしても、マンションと一戸建てすべてを含めた件数なのか、それとも別なのか不明である。</p>
事務局	<p>住宅・土地統計調査を5年に1度実施しており、その結果に基づくものだが、なぜ下がったかは不明である。福祉計画にも対策を落とし込むようにしていきたい。空き家バンクも実施しているが、それ以外にも計画があるか調べる。</p>
委員	<p>集いやすい場所が少ないというアンケート結果も出ているが、空き家を活用できないか。住宅街に住んでいても、</p>

	<p>高齢になると公民館まで行くのが難しくなる。近くで集会施設として使える空き家があれば便利である。</p>
委員	<p>同意見である。市の方針としてどのような条件で使えるか、社会資源として活用できるものを市として示してもらいたい。また、社会福祉協議会とも連携して基準を話し合っていたきたい。</p>
委員	<p>空き家は誰かの所有物であるが、空き家の状態だと畳にカビが生えるなど問題がある。それを綺麗にして誰かに使ってもらえば清潔に保てる。</p>
委員	<p>自治会でも、管理の問題などがあるが、市で借りてもらえると助かる。自分の自治会の区域では70戸ほど空き家があり、他の自治会では150戸ほど空き家があると聞いている。市で指針を出してもらいたい。所有者に連絡するにも個人情報関係で連絡が難しい。</p> <p>他の地区ではボランティアをしている一方、自治会には関心を示さない人もいる。地元の近くの人と交流を持たないのに別の場所でボランティアをするのが疑問である。</p>
委員	<p>現状では清掃活動に参加しない人も2割ほどいて、非会員も1割いる。同じ自治会であっても、亡くなったことを知らせたくない人や、地域の活動に出てこないという人もいる。</p>
委員	<p>自分の自治会では会員と非会員への対応が課題である。1割ほど自治会に加入していない。その班のリーダーによって、活動への参加への考えが異なる。普段の会話の中で家族の状況がわかればよいが、なかなかできない状況である。</p>
委員	<p>放課後子ども教室をやっている学校はどこか。</p> <p>また、62ページに市の取組として「放課後子ども教室スタッフの情報交換」「放課後子ども教室スタッフの拡充・支援」とあるが、あえて2つに分けた理由は何か。</p>
事務局	<p>その点は検討する。また、子ども教室を実施している学校</p>

	<p>は4校あり、大家小学校、三芳野小学校、片柳小学校、勝呂小学校で実施している。</p>
事務局	<p>先ほど質問があった空き家件数については、担当する住宅政策課に確認したところ、いずれも国の住宅・土地統計調査に基づく数値とのことである。しかし、坂戸市は県内の53市のうち空き家率が51位と低いほうで、そもそも埼玉県内の空き家率自体が全国の中でも低い。それに加え、県の空き家対策や埼玉県空き家対策連絡会議によって空き家所有者に働きかけを行った結果、埼玉県では空き家率が減ったとのことである。</p>
委員	<p>20ページの「空き家の推移」に空き家の定義を記載してほしい。自分たちの感覚と市や県の空き家の考え方が異なるように感じる。</p>
委員	<p>体裁について、余白が多い印象を受けるため、余白を詰められないか。</p>
事務局	<p>項目が異なるため、あえて空けている。イラストを入れるなど工夫したい。</p>
委員	<p>第2期計画では市と社会福祉協議会の施策で色分けがしてあったが、次回以降はどうなるか。</p>
事務局	<p>素案は白黒だが、今後作成するものはカラーで分ける。</p>
委員	<p>台風第19号の際の避難について、指定された避難所がろう学園と千代田小学校であり、かなり遠かった。前は北坂戸中学校だったが閉校した。「すぐ避難してください」と放送があったが、困難であったため行かなかった。北坂戸小は急遽、緊急避難用で開け、体育館と校舎を利用させてもらえたと後で聞いた。しかし、指定避難所ではなかったことから水が出なくトイレが使用できなかった。そのため、北坂戸公民館と教育センターのトイレを借りたとのことであった。体が不自由な人は移動が難しい。その後災害のゴミ置き場として北坂戸小の校庭が活用されたが、今後の北坂戸小の活用について意見は出ていないのか。</p>

事務局	<p>北坂戸小及び近隣の桜小、桜中については浸水想定地域であるため指定していない。今回はろう学園が避難者であふれてしまったため、垂直避難できる北坂戸公民館と北坂戸小を急遽避難所として開設した。今後は御意見を伺いながら検討し、計画を策定していきたい。</p> <p>(2) その他</p>
事務局	<p>庁内策定・推進会議及びワーキングチームに会議と並行して意見等を求めていること、今後の市民コメントの実施及び次回の審議会の予定について案内。</p>